様式１

研修カリキュラム表（臨時的代替方法・介護職員初任者研修課程　通信）

事業者名：　パルシステム生活協同組合連合会

※実施方法については、「実施要綱」別紙３「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	実施計画						臨時的代替方法による実施内容					
講義・演習（実習）	カリキュラム名・時間数				実施内容							
1　職務の理解　6 時間	1　職務の理解　6 時間				1　職務の理解		1　職務の理解　6 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 多様なサービスの理解	(1) 同左	3	0	3	(1) 講義のみ		(1) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	3	3		
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2) 同左	3	0	3	(2) 講義・演習：視聴覚教材を用い、働く現場についてグループ毎に話し合って発表をします。		(2) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	3	3		
2　介護における尊厳の保持・自立支援　9 時間	2　介護における尊厳の保持・自立支援　9 時間				2　介護における尊厳の保持・自立支援		2　介護における尊厳の保持・自立支援　9 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 人権と尊厳を支える介護	(1) 同左	0	4	4	(1) 通信講習のみ		(1) 通信講習のみ	0	4	4		
(2) 自立に向けた介護	(2) 同左	1.5	3.5	5	(2) 通信講習／講義・演習：介護予防・残存機能の活用をテーマとした事例について、グループで話合います。		(2) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	5	5		
3　介護の基本　6 時間	3　介護の基本　6 時間				3　介護の基本		3　介護の基本　6 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1) 同左	1.5	0	1.5	(1) 講義のみ		(1) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	1.5	1.5		
(2) 介護職の職業倫理	(2) 同左	0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ		(2) 通信講習のみ	0	1.5	1.5		
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義・演習：事故予防や感染予防等の事例に基づき、介護に関るリスクについてグループで話し合い発表をします。		(3) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	1.5	1.5		
(4) 介護職の安全	(4) 同左	0	1.5	1.5	(4) 通信講習のみ		(4) 通信講習のみ	0	1.5	1.5		
4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携　9 時間	4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携　9 時間				4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携		4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携　9 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 介護保険制度	(1) 同左	1.5	1.5	3	(1) 通信講習／講義・演習：介護保険制度の理解を深めるため、申請から支給決定迄のフローチャート作成の実技演習をします。		(1) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	3	3		
(2) 障害福祉制度及びその他制度	(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ		(2) 通信講習のみ	0	3	3		
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左	0	3	3	(3) 通信講習のみ		(3) 通信講習のみ	0	3	3		
5　介護におけるコミュニケーション技術　6 時間	5　介護におけるコミュニケーション技術　6 時間				5　介護におけるコミュニケーション技術		5　介護におけるコミュニケーション技術　6 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左	0	3	3	(1) 通信講習のみ		(1) 通信講習のみ	0	3	3		
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左	3	0	3	(2) 講義・演習：言語・非言語コミュニケーション技術を学ぶため、障害者や認知症に応じた対応方法をグループで話合います。		(2) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	3	3		
6　老化の理解　6 時間	6　老化の理解　6 時間				6　老化の理解		6　老化の理解　6 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	(1) 同左	3	0	3	(1) 講義・演習：例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。		(1) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	3	3		
(2) 高齢者と健康	(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ		(2) 通信講習のみ	0	3	3		
7　認知症の理解　6 時間	7　認知症の理解　6 時間				7　認知症の理解		7　認知症の理解　6 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左	0	1.5	1.5	(1) 通信講習のみ		(1) 通信講習のみ	0	1.5	1.5		
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左	0	1.5	1.5	(2) 通信講習のみ		(2) 通信講習のみ	0	1.5	1.5		
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義のみ		(3) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	1.5	1.5		
(4) 家族への支援	(4) 同左	1.5	0	1.5	(4) 講義・演習：認知症の家族事例を聞き、どのような支援ができるか、グループで話し合い発表をします。		(4) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	1.5	1.5		
8　障害の理解　3 時間	8　障害の理解　3 時間				8　障害の理解		8　障害の理解　3 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 障害の基礎的理解	(1) 同左	0	0.75	0.75	(1) 通信講習のみ		(1) 通信講習のみ	0	0.75	0.75		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	(2) 同左	0	0.75	0.75	(2) 通信講習のみ		(2) 通信講習のみ	0	0.75	0.75		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義・演習：障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合って発表します。		(3) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	1.5	1.5		
9　こころとからだのしくみと生活支援技術　75 時間	9　こころとからだのしくみと生活支援技術　75 時間				9　こころとからだのしくみと生活支援技術		9　こころとからだのしくみと生活支援技術　75 時間					
ア　基本知識の学習　10～13時間	ア　基本知識の学習　10 時間				ア　基本知識の学習		ア　基本知識の学習　10 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(1) 介護の基本的な考え方	(1) 同左	0	2	2	(1) 通信講習のみ		(1) 通信講習のみ	0	2	2		
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	(2) 同左	0	4	4	(2) 通信講習のみ		(2) 通信講習のみ	0	4	4		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(3) 同左	0	4	4	(3) 通信講習のみ		(3) 通信講習のみ	0	4	4		
イ　生活支援技術の講義・演習　50～55時間	イ　生活支援技術の講義・演習　51 時間				イ　生活支援技術の講義・演習		イ　生活支援技術の講義・演習　51 時間					
		通学	通信	合計				通学	通信	合計		
(4) 生活と家事	(4) 同左	2	0	2	(4) 講義・演習：事例を示し、共に行う清掃、洗濯、調理等を演習します。		(4) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	2	2		
(5) 快適な居住環境整備と介護	(5) 同左	2	0	2	(5) 講義・演習：事例を示し、家庭内の事故、バリアフリー、福祉用具等を演習します。		(5) 講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	2	2		
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(6) 同左	7.5	0	7.5	(6) 講義・演習：更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習します。		(6) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5		
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 同左	7.5	0	7.5	(7) 講義・演習：移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習します。		(7) 講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5		

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画						臨時的代替方法による実施内容			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数				実施内容					
(8)	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 同左	7.5	0	7.5	(8)	講義・演習：食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習します。	(8)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5
(9)	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 同左	7.5	0	7.5	(9)	講義・演習：入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習します。	(9)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5
(10)	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	7.5	0	7.5	(10)	講義・演習：排泄介助方法の基本を学び、利用者を想定し、排泄介助の実技演習します。	(10)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5
(11)	睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	7.5	0	7.5	(11)	講義・演習：利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習します。	(11)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3.75	3.75	7.5
(12)	死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	0	2	2	(12)	通信講習のみ	(12)	通信講習のみ	0	2	2
(実習)※ （50～55時間中12時間以内）		(実習)※ 0 時間				(実習)※		(実習)※				
介護実習 ○時間					0							0
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間					0							0
在宅サービス提供現場見学 ○時間					0							0
ウ 生活支援技術演習 10～12時間		ウ 生活支援技術演習 14 時間				ウ 生活支援技術演習		ウ 生活支援技術演習				14 時間
			通学	通信	合計					通学	通信	合計
(13)	介護過程の基礎的理解	(13) 同左	7	0	7	(13)	講義・実技演習：片麻痺または認知症等の事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画をグループで立案し、発表します。	(13)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3.75	3.25	7
(14)	総合生活支援技術演習	(14) 同左	7	0	7	(14)	講義・実技演習：片麻痺および認知症の2事例を使って、一連の自立に向けた介護過程の展開方法を考え、実技演習します。	(14)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習）で、実技演習は同左とします。	3.75	3.25	7
10 振り返り 4 時間		10 振り返り 4 時間				10 振り返り		10 振り返り				4 時間
			通学	通信	合計					通学	通信	合計
(1)	振り返り	(1) 同左	2	0	2	(1)	講義・演習：研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことを確認し、各自発表します。	(1)	講義及び演習部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	2	2
(2)	就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	2	0	2	(2)	講義のみ	(2)	講義部分を通信形式（テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習）で実施します。	0	2	2
追加カリキュラム 時間												
計 （ 130 時間 ）		計 （ 130 時間 ）										（ 130 時間）

※「9こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。